



QRコードを読み取り、ホームページ
を見ることができます。スマイル附属情
報を様々な発信中です！

令和3年度 附属小学校だより

スマイルふぞく



第8号 令和3年12月8日(水) 校長 古野 祐一

12月3日(金)～10日(金)は北斗の人権週間です。人権週間にあたり、二つの場面から考えたことを紹介します。

優しさのプレゼント！

1年生トイレで私が用を足そうと入った時、二人の1年生が先客でした。元気な1年生で「おーい！校長先生！」と明るい挨拶。さらに、一人になる私が寂しくなると思ったのか「校長先生を待ってこう」と、すべてのスリッパを丁寧に並べながら、私を見守る二人。用を足した私を見て安心したのか笑顔で無邪気に出ていった1年生。何やらとても大切にもらった気になり、一人ニコニコして校長室に戻りました。

1年生の行いのように、「ありがとう」をプレゼントしたり、されたりする瞬間に積み重なっていく幸せが、人権を大切にす
るスマイル附属を築いていきます。

見ているも見えてないこと！

もう一つの場面は昼休みです。ある学年の子どもたちが長縄の練習をしていました。皆で列をなして、回る縄に駆け込む友達を注視しています。最後方で順番を待っていた男子の足に、低学年がやっていたドッジボールが転がってきて当たりました。その子は、素早くボールを拾って手渡したけれど、少し前の人との間隔があき、縄にひっかかってしまいました。テンポよく跳んでいたリズムが壊れ、残念な空気が流れた瞬間です。何か言いたげな表情でしたが、また長縄の集中に戻ってしまいました。

この長縄の出来事のように、相手の事情や仕方がない理由に気付かず「どうしてちゃんとやらないの」と、冷たい「どうして？」を抱いてしまう時が日常の中にもあります。

私たち大人も同じです。「どうして言わないの、どうしてやらないの」と、目に見えることで判断し、感情的に叱責したり違いを認めきれなかったりすることがあります。「どうしてこんな風になったのだろう」「あの時どうして～してたんだろう？何か理由が・・・」と、相手をおもんばかる心の巻き戻しを行い、優しい「どうして？」を考えられるスマイル附属でありたいと思います。

人権集会の話の中で「人権とは、自分らしく自由に安心して過ごす権利」であると子どもたちに伝えました。ただし、「ルールを守って、他の人たちの幸せを邪魔しないかぎり」ということも付け加えました。

各学級では、「誰もが怖がったり悲しんだりせずに、穏やかに明るく過ごしたいと思うのは当然の権利であり、どんなことがあってもその邪魔をしてはならない」と学びを深めています。

家庭でも「人権」の話題を家族の団欒にのぼらせて、温もりのある対話をしてみてはいかがでしょうか。



集会委員会のいじめストップの演技



学校説明会の体育館の様子



音楽科のグループ学習の様子



チャレンジタイムでの長縄練習

※裏面に続きます！

複式教育から見えてきたもの

「複式に入学させたいのですが・・・」

12月2日に、入学希望者対象の学校説明会が終わり、数名の保護者から複式に関する質問を受けました。本校の複式教育への関心の高さを伺うことができた瞬間でした。

さて、本校に複式学級が誕生してから、今年で17年目を迎えます。本県では、多くの離島や半島を抱えているという地理的条件に加え、少子化による児童数の減少から、多くの学校で複式学級を有しているという現状があります。このような現状を踏まえ、本校では、複式指導の研究成果を多くの先生方にお伝えすることを目的として、日々の教育実践に励んでいるところです。

これまでの複式教育の実践を通して、複式の学びによって、次のような子どもを育てることができていることが明らかになってきました。

- 「少数である」からこそ「一人一人への指導が行き届く」
- 「少数である」からこそ「一人一人の表現力が育つ」
- 「直接指導できない場がある」からこそ「学び防が身に付く」
- 「異年齢集団」だからこそ「憧れと思いやりの心が育つ」

子どもの姿から、異年齢交流は、学習だけでなく、子どもの心の成長にも大きく影響を与えることを実感しています。

これからも、子どもの自己実現や地域貢献のために、複式教育の充実を図ってまいります。

教頭 松永 知大

1つ？

音楽を学ぶ意義は、豊かな心を育てることです。では、音楽を学ぶよさは、豊かな心を育てることだけなのでしょうか。

実際は、様々なよさがあります。例えば、脳の観点から言うと、様々な音を聞き分けられるようになると言われていています。

実際、海外の高校の研究では、授業で音楽を選択している人ほど、音韻を聞き分けるテストで成績が向上したそうです。また、騒音の中でもあっても会話が上手にできるということが分かりました。

さて、附属小学校の使命の一つである研究が進んでいます。各教科等が学ぶ意義やよさを研究し、子どもとともに新たな授業を創っています。毎時間の授業を観ると、その跡が見え、子ども一人一人の資質・能力が伸びていることがよく分かります。

2月10日（木）の研究発表会がますます楽しみになりました。

主幹教諭 池田 一幸

技能上達法

～長縄跳びを通して～

技能を身に付け磨いていくための方法を、長縄跳びの実践からお話しします。

1. 願望

願いをもつことです。まずクラスの目標を決めます。「600回」など数値目標、「皆で達成感」など過程を大切にしたい目標です。

2. 実践

願いをもったら実践です。連続100回、1分間ミスなしなど、成長がわかる目標に向けて1ヶ月半、全員で向き合います。

3. こつ

理屈だけを伝えても練習能率は上がりません。体を通した「こつ」の理解が必要です。

4. 継続

意欲には波があります。担任はあの手この手を打って、子どもの意欲を持続させます。

縄跳び大会までの学級の営みと子どもの頑張りを思い浮かべることで、記録だけでなく学級と子どもの成長が見えてきます。

教務主任 橋田 晶拓